新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第80号

§　1 階ロビーをリニューアルしました♪　§

1 階展示ロビーにおいて、3 月 19 日より新たにガラス展示ケースを設置し、仮はく製と羽標本を展示しました。仮はく製は、アカショウビンやカワセミなど 18 体、羽標本はカワセミやアオバトなど 8 種類を展示しています。これまで展示していたﾊﾞｰﾄﾞｶｰﾋﾞﾝｸﾞや触れる標本と共に入館者の人気を集めています。

美しい姿と羽色をじかにご覧ください。

§　平成 26 年度野鳥写真展　§

平成 26 年度は 40 名の方に参加していただき、応募作品は 161 点でした。

※審査をより厳選するため、応募数をお一人 5 枚までとしました。

【講評】金賞を受賞した田辺昭三氏の作品は、水の波紋や背景とオシドリとの色合いのグラデーションにメリハリがあり素晴らしい作品。全体的な評価としては、よく自然を観察していないと撮影することのできない生態写真、また撮影テクニックが必要な動きの素早い野鳥も多く見られた。撮影の難しい小鳥や珍しい野鳥も撮影されており、新潟県の野鳥を知る上でも貴重な作品が応募されていた。

金賞：田辺 昭三 氏「仲良し(オシドリ)」

銀賞：荒井 喜一 氏「エナガ」

銀賞：中村豊美子 氏「メジロのデザート」

賞	タイトル【鳥名】	氏　名	撮影場所（時期）
金賞	仲良し(オシドリ)	田辺　昭三	南蒲（5月）
銀賞	エナガ	荒井　喜一	南蒲（5月）
	メジロのデザート	中村　豊美子	西蒲・新潟（1月）
銅賞	春うらら(タゲリ)	井川　康徳	西蒲・新潟（3月）
	得意満面(ミサゴ)	安野　恵津子	佐渡（10月）
	マヒワ	金子　俊彦	中頸（4月）
特別賞	ナキイスカ♀	山崎　悦子	西蒲・新潟（3月）
佳作	キマユムシクイ	山崎　勝明	西蒲・新潟（11月）
	まっているだろうな(アカショウビン)	阿達　清	北蒲（7月）
	オナガ	岡庭　永一	中頸（11月）
	キジ	高橋　祐輔	西蒲・新潟（6月）
	つばめのきょうだい	鈴木　登志雄	北蒲（6月）
	鳥の目、魚の目(ヨシゴイ)	酒井　邦夫	北蒲（7月）
	冬のご馳走(メジロ)	泉田　忠穂	南蒲（2月）
	トキ色全開	安野　邦夫	佐渡（10月）
	クイナ	阿部　繁	西蒲・新潟（12月）
	ヨシゴイ	小沢　栄一	北蒲（7月）

§　２年目を迎えて　§　所長　西脇　憲治

気づけば桜も散り、つい最近まで見かけたと思っていたアカゲラ、アオゲラ、ヤマガラは姿を消し、カワラヒワ、ホオジロ、メジロなどがさえずりと共に姿を見せるようになり、春から初夏を思わせる季節となってきました。

昨年は私自身、愛鳥センター1 年生、鳥の姿やさえずりで季節を感じる余裕も無く、慌ただしく過ぎた１年でした。今年はセンターの事業をとおし季節を感じ取れればと思っています。

話は変わりますが、愛鳥センターは平成２年５月に開設してから今年５月で２５年が経過しました。センター所長も私で１３代目となります。施設は、あちこちで老朽化が目立ち始め、修繕の必要な箇所が多数見受けられるような状態です。とは言っても、この１年、職員はそれぞれ味のあるいい仕事をしてくれて、感謝しています。２５周年を迎え、今年も職員の力を借り来館者数増を目指し、記憶に残る１年になるよう努めたいと思っております。

また、これまで多くの関係団体の皆様及び県民の皆様に支えられ２５年を迎えることができたものと思っており、とても感謝しております。これからも皆様の御協力・ご支援よろしくお願いします。

終わりになりますが、この１年少し小鳥を覚え、写真も撮れましたので、１枚披露させていただきます。

カワラヒワ

§瓢湖探鳥会及び野鳥保護の集い§

探鳥会

遠くの水面にはトモエガモやオカヨシガモなどの群れが確認でき、何種類ものカモたちを比べながら観察することができました。その他にはカモメなどの水鳥も見られ、オオタカやチュウヒなどの猛禽類や小鳥についても数種類が現れました。

また、愛鳥モデル校の水原小学校から白鳥パトロール隊の児童が 34 名参加され、瓢湖の白鳥を守る会の方に探鳥会指導をしていただきました。

野鳥保護の集い

平成26年度野鳥写真展表彰式には10名の方にご出席いただきました。また、会場には入賞作品 17 点を展示し、多くの方にご覧いただきました。探鳥会の結果整理は、新潟県野鳥愛護会の山田清副会長にお願いしました。午前中の探鳥会で観察された野鳥を整理し、瓢湖とその周辺には多くの野鳥が生息していることを再確認しました。引き続き山田副会長に、県が例年愛護会に委託しているカモ科鳥類生息状況調査について報告いただきました。例年通りの傾向の中、コハクチョウの減少とカモ類の増加といった今年の特徴を紹介いただきました。

新潟県野鳥愛護会の本間隆平顧問に「瓢湖におけるオナガガモの越冬」と題して、長年瓢湖において調査研究されてきたオナガガモについて講演いただきました。

オスとメスがペアになる様子や行動を、貴重な生態写真で紹介いただきました。1998 年から実施されている鳥類標識調査の成果についても発表いただき、瓢湖で捕獲されたオナガガモが国内では北海道から岡山まで各地に移動したこと、また海外ではロシアやアメリカまで移動したという記録についても紹介いただきました。調査の中で得られた興味深い体重変化についても触れ、オナガガモが越冬のために瓢湖を利用しているのか渡りの中継のために利用しているのか考察を紹介いただきました。

おわりに、新潟県野鳥愛護会の千葉晃副会長より冬鳥情報の紹介をしていただきました。佐渡でツメナガホオジロやユキホオジロなどの珍しい野鳥が見られ、さらには新潟県で 2 例目となるノハラツグミの記録などを写真で紹介いただきました。下越でオオワシやベニヒワなど、中越でアカツクシガモなどが見られたことも紹介いただきました。

講演会の様子

§ 傷病鳥獣の収容状況 §

平成26年度　12月～3月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	11月末収容数	収容数	放鳥獣	譲渡返還	死亡	3月末収容数	収容NO.	種類	11月末収容数	収容数	放鳥獣	譲渡返還	死亡	3月末収容数
（鳥類）								21	ノスリ	1	1			1	1
1	キジ		4	2		2	0		クマタカ	1					1
	ヒシクイ	1				1	0	22	フクロウ	1	1			2	0
2	コハクチョウ	4	16	5		14	1	23	トラフズク		1	1			0
3	オオハクチョウ	1	5	2		2	2	24	アオゲラ		2			2	0
	マガモ	2					2	25	チョウゲンボウ		3	2		1	0
4	カルガモ	1	2	1		2	0		ハヤブサ	2				2	0
5	コガモ		2			2	0	26	ハシボソガラス	1	1			1	1
6	ミコアイサ		1			1	0	27	シジュウカラ		1			1	0
7	カンムリカイツブリ		1	1			0	28	ヒヨドリ		2	1		1	0
8	キジバト		2			2	0	29	ウグイス		1			1	0
9	コシジロウミツバメ		1			1	0	30	メジロ		4	1		3	0
10	ウミウ		1			1	0	31	ヒレンジャク		1			1	0
11	ゴイサギ		1			1	0	32	シロハラ		1	1			0
12	アオサギ	1	1			1	1	33	ツグミ		1			1	0
13	ダイサギ	1	1	1			1	34	ジョウビタキ		1			1	0
14	チュウサギ		1			1	0	35	スズメ		1			1	0
15	オオバン		2			2	0	36	ハクセキレイ		1			1	0
	ムナグロ	1				1	0		カワラヒワ	1		1			0
16	タシギ		1			1	0	37	ウソ		1	1			0
	ウミネコ	1		1			0	38	ドバト	3	1	1		3	0
17	セグロカモメ		2			1	1	39	不明		1			1	0
18	オオセグロカモメ	1	1			1	1	小計		29	73	23	0	64	15
19	ハシブトウミガラス		1	1			0	（獣類）							
	トビ	4				1	3	1	タヌキ		1			1	0
20	オオタカ		1			1	0	小計		0	1	0	0	1	0
	サシバ	1				1	0	合計		29	74	23	0	65	15

平成26年12月1日～平成27年3月31日までの収容数は、鳥類39種73羽、獣類1種1頭で、昨年度の同時期（鳥類71羽、獣類2頭）とほぼ同様の数値であった。

特記事項

・　ミコアイサ

平成27年2月19日、新発田市早道場地内で保護され、翌20日センターに収容された。
骨折は確認されないが、尾羽が数枚欠損して飛べない状態であった。給餌をするも全く食べず、次第に衰弱し24日に死亡した。
収容時の体重：539.6g
この個体は、平成5、23年に次いで3例目。

・　コシジロウミツバメ

平成26年12月20日、新潟市江南区稲葉の道路で飛べずにいたのを保護された。
センターには24日死体で収容された。外傷はなく、強風等で内陸地に運ばれ、衰弱したと思われた。
収容時の体重：24.3g
この個体は、平成12、13、15年に次いで4例目。

・　ヒレンジャク

平成27年3月8日、五泉市赤海地内の民家庭でうつぶせの状態で保護され、10日センターに収容されが、間もなく死亡した。衝突等による脳震盪と思われた。
収容時の体重：40.5g
この個体は、平成4(3)、5、8年に次いで6例目。

☆ヒナを拾わないでください。☆

今の時期、ヒナを拾ったとの連絡や持ち込む方が急増します。しかし、大半は拾う必要のない正常な状態です。野鳥にとって、今は子育ての時期で、巣立ったばかりのヒナがうまく飛べずに地面にいることもあります。近くで親鳥が見守っているはずですので、**そのままそっとしておきましょう。**

§12～3 月の探鳥会・観察会§

平成 26 年度の探鳥会についてまとめてみたいと思います。探鳥会と観察会で見られたものを全て挙げてみると 106 種類でした。毎年およそ 100 種類前後みられているので例年通りの結果でしょうか。

各探鳥会において初記録となる野鳥も見られました。まとめてみると、5 月 3 日「さえずりを聞く会」イスカ、5 月 25 日「三光鳥を聞く会□」キバシリとマヒワ、6 月 1 日「三光鳥を聞く会□」オオタカとハイタカ、8 月 24 日「シギ・チドリ観察会」アカゲラ、10 月 19 日「秋の渡りを見る会」タシギ、ジョウビタキといった結果でした。どの観察会も 10 年以上継続しているものの、まだまだ初記録が出てくるのは面白いですね。

12/7（日）海鳥観察会 9:00～11:00（曇り時々雪）【①】
場所：網代浜漁港～東港　参加者 5 名 観察種 21 種

前日の大雪で積雪が残る中、珍しい海鳥の出現を期待しながら、網代浜漁港へ向かいました。ハジロカイツブリやミミカイツブリ、ヒドリガモの群れなどを観察しました。強風やあられに負けじと東港のほうへ進むと、白い姿が美しいカンムリカイツブリが数羽見られ、マガモの大群がプカプカ浮かぶ様子もなかなか圧巻でした。

港内を探します

キクイタダキが見られました

1/11（日）足跡ウォッチング 9:00～11:15（曇り時々雪）
場所：愛鳥センター探鳥路 参加者 10 名

落ち着いたお天気で、愛鳥センター管理棟脇で早速ノウサギ足跡を発見し、特徴的な形や歩行の跡をしっかりチェックしました。観察舎の近くではタヌキの足跡を見つけました。林の奥まで進むと、積雪が多くあり、ノウサギやタヌキの足跡もたくさん見つけることができました。普段姿を見ることはなかなかできませんが、実は意外に身近な所に哺乳類たちは住んでいるのですね。

2/8（日）冬鳥観察会Ⅰ 9:00～11:00（曇り）【②】
場所：福島潟 参加者 11 名 観察種 32 種

ムクドリの群れが畑でエサ探しする様子を観察しながら、潟へ向かいました。カイツブリやオカヨシガモを観察していると、カモメが横切っていきました。雁晴れ舎ではたくさんのタゲリが中洲にいるのを見ることができ、ミコアイサのメスやチュウヒなども観察できました。開花するハンノキを眺めながら帰路につき、アカゲラにも出会いつつ、最後は美しいカワセミで締めくくりとなりました。

観察会の様子

3/15（日）冬鳥観察会Ⅱ 9:00～10:50（快晴）【③】
場所：お幕場大池 参加者 11 名 観察種 30 種

大池では、ハシビロガモがオスとメスでくるくると回りながら採食する面白い行動や、ホシハジロのオスが複数でメスを取り囲んで求愛している様子などを観察しました。林に進むと、シジュウカラやホオジロなどの小鳥を観察しました。散策路の上で巣作りを始めたエナガを観察することができ、どこからかクモの糸を集めてきている様子が見られました。

ハクチョウやカモを間近で観察！

探鳥会の確認鳥種

No.		①	②	③	No.		①	②	③	No.		①	②	③
1	キジ	●			19	カンムリカイツブリ	●			37	カワセミ		●	
2	ヒシクイ		●		20	ミミカイツブリ	●			38	アカゲラ		●	
3	マガン		●		21	ハジロカイツブリ	●			39	モズ		●	●
4	コハクチョウ	●	●	●	22	キジバト		●		40	ハシボソガラス	●	●	●
5	オオハクチョウ			●	23	カワウ		●		41	ハシブトガラス	●	●	●
6	オカヨシガモ		●		24	ウミウ	●			42	ヤマガラ			●
7	ヒドリガモ	●		●	25	アオサギ		●	●	43	ヒガラ			●
8	マガモ	●	●	●	26	ダイサギ		●		44	シジュウカラ		●	●
9	カルガモ	●	●		27	オオバン		●		45	ヒバリ			●
10	ハシビロガモ			●	28	タゲリ		●		46	ヒヨドリ			●
11	オナガガモ		●	●	29	ユリカモメ			●	47	エナガ		●	●
12	トモエガモ		●		30	ウミネコ	●			48	ムクドリ		●	
13	コガモ	●	●	●	31	カモメ	●	●	●	49	ツグミ		●	●
14	ホシハジロ			●	32	セグロカモメ	●			50	イソヒヨドリ	●		
15	キンクロハジロ			●	33	ミサゴ	●		●	51	スズメ	●	●	●
16	ミコアイサ		●	●	34	トビ	●	●	●	52	ハクセキレイ	●	●	●
17	ウミアイサ	●			35	チュウヒ		●		53	カワラヒワ			●
18	カイツブリ		●		36	ノスリ		●	●	54	ホオジロ			●
											合計	21	32	30

平成 26 年度の探鳥会・観察会で見られた野鳥

ヤマドリ・キジ・ヒシクイ・マガン・コハクチョウ・オオハクチョウ・オカヨシガモ・ヒドリガモ・アメリカヒドリ・マガモ・カルガモ・ハシビロガモ・オナガガモ・トモエガモ・コガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ・ミコアイサ・ウミアイサ・カイツブリ・カンムリカイツブリ・ミミカイツブリ・ハジロカイツブリ・キジバト・アオバト・カワウ・ウミウ・アオサギ・ダイサギ・オオバン・ホトトギス・ツツドリ・アマツバメ・タゲリ・メダイチドリ・タシギ・キアシシギ・ソリハシシギ・トウネン・ユリカモメ・ウミネコ・カモメ・セグロカモメ・オオセグロカモメ・ミサゴ・ハチクマ・トビ・チュウヒ・ハイタカ・オオタカ・サシバ・ノスリ・フクロウ・アカショウビン・カワセミ・コゲラ・アカゲラ・アオゲラ・サンショクイ・サンコウチョウ・モズ・カケス・ハシボソガラス・ハシブトガラス・キクイタダキ・コガラ・ヤマガラ・ヒガラ・シジュウカラ・ヒバリ・ツバメ・ヒヨドリ・ウグイス・ヤブサメ・エナガ・エゾムシクイ・センダイムシクイ・メジロ・キバシリ・ミソサザイ・カワガラス・ムクドリ・トラツグミ・クロツグミ・シロハラ・ツグミ・コマドリ・ジョウビタキ・イソヒヨドリ・コサメビタキ・キビタキ・オオルリ・ニュウナイスズメ・スズメ・キセキレイ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・アトリ・カワラヒワ・マヒワ・イスカ・シメ・イカル・ホオジロ・アオジ・オオジュリン　計 106 種類

探鳥路観察会

12/20（土）10:00～11:30（曇り）参加者 3 名

積雪のある林のなかを散策しました。ノウサギやイタチ、キジなどの足跡が見られました。ノウサギがタラやアカメガシワなどを食べた痕も確認しました。

2/1（日）10:00～11:00（曇り時々雪）参加者 1 名

観察池でダイサギを観察しました。阿房堀の近くでモズのはやにえを見つけました。

3/8（日）10:00～11:30（曇り）参加者 6 名

コブシのふわふわな冬芽を観察し、足元のモグラやネズミの穴の観察もしました。探鳥路ではアオキの葉や実をじっくり観察しました。

トピック

ペンギンにそっくりなハシブトウミガラス

平成 27 年 2 月 3 日、村上市で保護された「ハシブトウミガラス」が愛鳥センターに収容されました。海鳥で、新潟県では冬にごく少数が渡来します。おもに遠洋に生息しますが、海が荒れたときは、港など海岸の近くでも見られることがあります。

今回保護された個体は、骨折や外傷は見当たらなかったのですが、衰弱してやせていました。さらに、油汚染を受けていて、脚や尾羽の周りに油が付着していたので、まず洗浄を行いました。洗浄液で油を落とし、お湯でしっかり洗い流したあと、ドライヤーで羽を乾かしました。ハシブトウミガラスはちょっとお疲れの様子でしたが、あとは安静にして体力の回復を図るのみです。その後、ワカサギの切り身やイワシ・イカのペーストを与え、数日後、近くの海岸で放鳥しました。元気でいてくれることを祈ります。

洗浄中

乾かしているところ

◆　12～3 月の来館者数

月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
来館者数	101	273	415	513	1, 302

館内設置のトキ募金箱の報告

平成 27 年 2 月～平成 27 年 4 月　1, 551 円

累計２５５，１９３円

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。

今後ともご協力をお願いいたします。

§「にいがたみぢかな鳥ずかん」をリニューアルしました！　§

愛鳥センターで無料配布している「にいがたみぢかな鳥ずかん」のリニューアルを行いました。

写真を見やすくするとともに、新たに野鳥の鳴き声や食べ物なども盛り込みました。手軽に見ることができる A6 サイズの図鑑で、日頃よく目にする鳥たちが 52 種類掲載されています。

お手元に 1 冊どうぞ！

９月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

三光鳥を聞く会（剣龍峡集合）
6/ 7（日）　6:00～8:00

紫雲寺記念公園探鳥会（愛鳥センター集合）
6/28（日）　9:00～10:30　　定員 20 名
※この探鳥会は申込みが必要です。
紫雲寺記念公園グループ　0254-41-3740

シギ・チドリ観察会（海のにぎわい館集合）
8/30（日）8:00～10:00

タカの渡りを見る会（剣龍峡集合）
9/20（日）10:00～12:00

観察会ほか

工作教室（愛鳥センター集合）
7/26（日）　13:30～15:30　　定員 20 名
※7/19（日）までに愛鳥センターへ
お申込みください。

巣箱作り教室（愛鳥センター集合）
8/ 9（日）　13:30～16:00　　定員 8 組
※8/2（日）までに愛鳥センターへ
お申込みください。

マツムシの声を楽しむ会（愛鳥センター集合）
9/ 5（土）　18:00~20:00

特別展

夏休み特別展（愛鳥センター2 階）
7/11（土）～9/19（土）

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
開館時間：午前 9 時～午後 4 時
休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池
Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501
HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho
E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp